

# 分娩柵利用による新生子豚の損耗防止に関する試験

第一報 加藤巳之吉 大橋昭也

## 1. 目的

繁殖豚の多頭飼育経営を行なうために解決を要する分娩管理の省力化については、新生子豚の損耗原因のうち約50%と最も多くを占める母豚による圧死事故を如何に防止するかにかかっている。

そこで分娩豚舎および附属施設の改良による事故防止の可能性を調査する目的をもって本試験を実施した。

## 2. 試験材料および方法

### (1) 供試豚

當場繁殖の中ヨークシャー種大ヨークシャー種およびランドレース種について調査研究した。

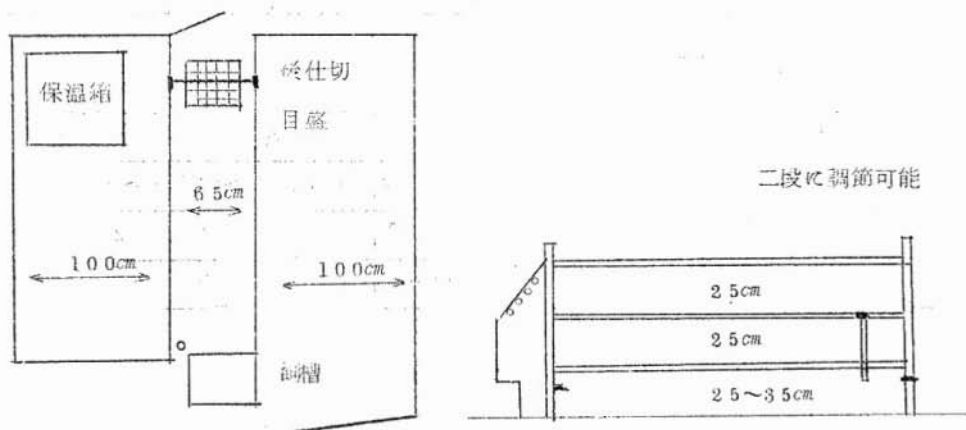
### (2) 試験期間

昭和48年1月より昭和49年2月までに分娩した種雌豚について行つた。

### (3) 分娩および管理

ア 分娩柵の構造と配置は第1図に示すようなものである。

第 一 図



イ 分娩豚の収容は分娩前1~2週間前に豚舎に収容し豚房に馴らすと同じく柵は先ず片側をセットし妊豚の状態に応じて分娩当日または2~3日前から両面のセットを行つた。

ウ 分娩時は原則として看護分娩を行い終了後は自由に授乳を行はせ無看護とした。

エ 保温には保温マット、保温箱、赤外線電球などを必要に応じて単用または併用して

新生子豚の保護育成につとめた。

3. 分娩槽使用による圧死調査成績

表 1. 分娩槽使用効果

供試豚 品種 調査項目	試 験 区				対 照 区			
	中ヨーク シヤ	大ヨーク シヤ	ランド レース	合 計	中ヨーク シヤ	大ヨーク シヤ	ランド レース	合 計
供 試 腹 数	12腹	21〃	13〃	46腹	28〃	14〃	12〃	54腹
哺育開始頭数	98頭	225〃	119〃	442頭	263〃	132〃	108〃	503頭
一腹平均頭数	8.17頭	10.71〃	9.15〃	9.61頭	9.39〃	9.43〃	9.00〃	9.31頭
圧 死 頭 数	3頭	9〃	2〃	14頭	6〃	13〃	4〃	23頭
圧 死 率	3.06%	4.00%	1.68%	3.17%	2.28%	9.85%	2.70%	4.57%

表 2. 品種別生後日令による圧死数

供試豚 品種 週別圧死 頭数	試 験 区				対 照 区			
	1~7日	8~14日	15~21日	合 計	1~7日	8~14日	15~21日	合 計
中ヨークシヤ	2頭	1頭	0頭	3頭	6頭	0頭	0頭	6頭
大ヨークシヤ	7〃	2〃	0〃	9〃	10〃	1〃	2〃	13〃
ランドレース	0〃	1〃	1〃	2〃	3〃	1〃	0〃	4〃

表 3. 生後日令による圧死亡率

供試豚 品種 調査項目	試 験 区				対 照 区			
	1~7日	8~14日	15~21日	合 計	1~7日	8~14日	15~21日	合 計
日令別圧死数	9頭	4〃	1〃	14頭	19頭	2〃	2〃	23頭
日令別圧死亡率	64.3%	28.6%	7.1%	100%	82.6%	8.7%	8.7%	100%

表 4. 品種別1腹当り圧死数

圧死数	試 験 区				対 照 区			
供試豚 品種	1頭	2頭	3頭	4頭	1頭	2頭	3頭	4頭
中ヨークシヤ	1腹	2腹	0腹	0腹	6腹	0腹	0	0
大ヨークシヤ	5	2	0	0	2	0	1	2
ランドレース	2	0	0	0	2	1	0	0

#### 4. 考 察

- (1) 表1でみると試験区が3.17%、対照区が4.57%で分娩柵の使用効果が証明された。
- (2) 表2、3でみた場合に生後1週間で起きる圧死は両区とも大部分を占めているが試験区の第2週で28.6%の圧死率を生じているのは柵を除いた直後の子豚が多くこの点についての考察が必要と思はれる。
- (3) 分娩柵を使用しなかつた場合表4にみられる様に1腹で4頭の圧死をした大ヨークシャーが2頭もあり、これは哺乳子豚数が多かつた事にも原因があるが試験区が最高2頭であるのに比べても柵の必要性が認められる。
- (4) 分娩柵の後部保定棒は固定式と移動式を使用したのが特に大型となつた分娩豚は移動式が便利であつた。
- (5) 柵を使用した場合の分娩豚に及ぼす障害は認められなかつた。

#### 5. 要 約

圧死防止の手段として分娩柵を利用した試験区の損耗率は3.17%と着床哺乳を行つた場合の4.57%の圧死率よりも良い結果を示した。

また、分娩柵の取外し時期は哺乳頭数、子豚の発育状態などを考慮する必要があり概ね生後2週間程度と考えられる。

なほ以上の結果から分娩柵の利用によつて厳寒季および夏季を除いて無看護分娩の可能性が認められたので次年度より無看護分娩について調査を継続実施する。